

インド債券(現地通貨建て)の足元の動向について

ポイント① 円ベースでは足元やや軟調に推移

円ベースでみた現地通貨建てインド債券のパフォーマンスが、足元でやや軟調に推移しています。現地通貨建てインド債券指数(JP Morgan GBI-EM Broad India)の年初来騰落率(円ベース)は、1月15日現在、-5.2%となっています。

ポイント② インドルピーの下落が主な要因

1月15日現在、インド5年国債(現地通貨建て)の利回りは7.68%と2015年末比でほぼ横ばいとなっており、年初来の下落は概ね為替要因(インドルピーの対円での下落)によるものです。

2016年初来、中国景気減速懸念の再燃や中国人民銀行(中央銀行)による人民元基準値の切り下げ、原油価格の急落などを受けて、投資家のリスク回避姿勢が高まっています。世界的に株式などのリスク資産が売られるとともに、安全資産とされる日本円が買われました。

こうしたなか、インドルピーも対円で下落しましたが、下落率は他の資源国・新興国通貨に比べ、限定的でした。背景には、インドは原油の純輸入国であり、原油安メリットを享受できるポジションにあることに加え、好調な内需を背景に高い経済成長率を維持していることや、経常収支が改善傾向にあることなど、インド経済の良好なファンダメンタルズがあると考えられます。

ポイント③ 中期的には堅調な推移が期待される

現地通貨建てインド債券の円ベースのパフォーマンスについては、中期的には堅調な推移が期待されます。

インフレ率はインド準備銀行(中央銀行)の想定に沿った動きとなっており、同中銀による追加利下げを見込む市場参加者もいます。こうした環境は、現地通貨ベースのインド債券価格の下支え要因になると考えられます。

短期的には、投資家のリスク回避姿勢を背景とした円高に注意が必要ですが、インドの良好なファンダメンタルズおよび高いインカム収入がインド債券のリターンをサポートすることが期待されます。

重要
イベント

2月2日	金融政策発表
2月8日	GDP成長率(15年10-12月期)
2月12日	消費者物価指数(1月)

図1：各国通貨の対円騰落率

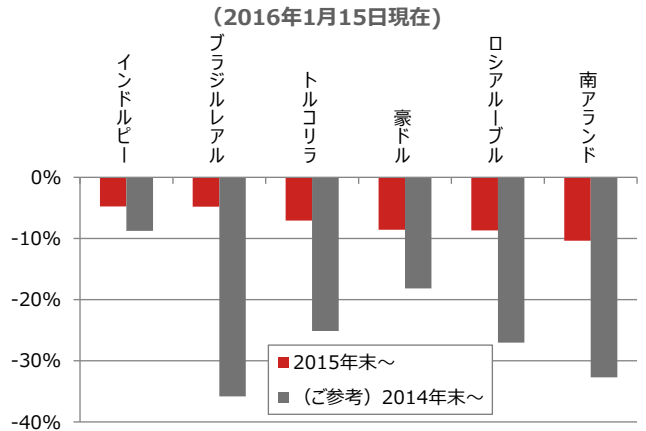
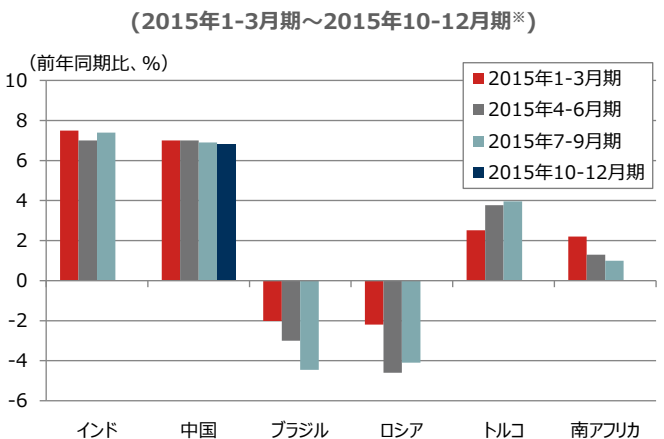
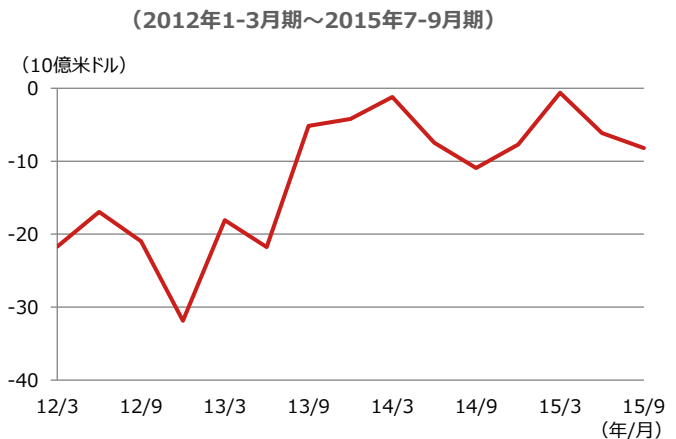


図2：各国の実質GDP(国内総生産)成長率



※中国以外は2015年7-9月期まで。

図3：インドの経常収支の推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。